

# 加賀脳卒中地域連携協議会 幹部会 議事録

日時:令和1年8月29日(木)19:00~20:10

場所:金沢脳神経外科病院 2階 会議室

参加者:7名

(順不同)

金沢脳神経外科病院:池田 清延、筆矢 昌美、楠 唯之

金沢市立病院:池田 正人

金沢医療センター:坂尻 顕一

おきの内科医院:沖野 惣一

やわたメディカルセンター:池永 康規

---

池田会長の司会進行のもと、以下の議題について協議が行われた。

## 報告事項)

1)12月総会について

- 12/5に開催予定
- 能登総合病院 歯科口腔外科 部長 長谷剛志 先生 ※内諾あり
- 地域との食の連携や嚥下障害を有する患者さんへの栄養管理について
- 大塚製薬工場が後援
- 講師料と交通費等を負担してもらう予定

2)会計の中間報告

- 県の100万の助成金のうち、現在使用分は526,181円、使用予定分が289,500円、予備費が184,319円。
- 県の助成金とは別に会費徴収分の余剰金が300万程度ストックされている。
- 会費は余剰しておくものではないため地域に還元する必要がある。
- 以下の用途に使ってはどうか？
  - ・連携パスの改定費用 ※前回の改定時に業者に依頼すると100万位かかった。
  - ・協議会に関わる研究費用の補助
  - ・協議会関連で学会発表する場合の助成(県外学会の旅費等)
  - ・脳卒中認定ナースの育成に関する助成

## 検討事項)

1)連携施設との年3回の面会について

- 年3回の面会について連携パスの加算を取っている施設は義務づけられている
- これまで役員会をカウントできていたが最近の監査で役員会のカウントはNGと指摘された。
- 連携パスの評価と見直しを定期的に行う必要がある。

- 委員会によっては年に3回以上開催されていない。

- 今後はどのように機会を作っていくか？

→年2回の役員会と同じ日に検討会を行う。前半に役員会を行い。後半に検討会を行う。前半、後半は別の会として扱う。

→役員会の日と別に1回、職種別で専門的な話をする場を作る。

- 第一回目の検討会は次回の11月の役員会で行う。
- 会員病院には必ず1名以上参加してもらうように通知を出す。
- 現在、設置されている委員会は適時開くこととする。

## 2)脳卒中予防ファイルの追加の有無について

- 脳卒中ファイルは急性期の3施設で渡しているが、渡した後になんかどうなっているかわからない状況。
- 追加する場合は予算をつけることは可能なので、運用促進委員会で追加の有無を検討する。追加する場合は使いやすいように改良する。
- 患者さんがもらってうれしいものを考える。

## 3)生活期の施設の意見を取り入れる機会について

- アンケートは2年前くらいに生活期にむけて行った。
- 回収率はクリニックの先生は32/133、事業所では13/50だった。
- 脳卒中はいろんな疾患の中の一部であるため、頻繁にそれぞれの施設で関わることはないのかもしれない。病院で50人脳卒中患者が退院されたとしても地域にはかなりの数の施設があるので、それぞれの施設で考えると年に1,2件となる。なので、あまり連携パスを見る機会がないのかもしれない。
- 生活期にどのように使用されているか見えない。
- コラボ研修を活用して生活期の意見を聞いてはどうか。
- 連携パスは情報量が多いため、クリニックの先生は見るのが大変で目を通せない。
- 医療介護連携シートはクリニックの先生の目に止まるように工夫してはどうか。
- 連携パスは情報量が多すぎて重要なポイントがわからない。
- ID-Linkを活用して生活期にパスを普及できないか医師会に相談する。
- 生活期に情報を渡すときは連携シートのみ紙で、他の用紙はID-LINKにのせてはどうか。
- ID-LINKの使用は二極化している。
- ID-LINKは加賀地域ではあまり普及しておらず、能登地域は普及している印象。

## その他)

- 脳卒中地域連携パスの同意書とID-Linkの同意書を1枚にすることができないか？  
→石川県の医師会に相談する。
- 連携パスに論文につかえるようなスケールを入れていきたい。
- NIHSSが入っていないことが多い。
- 現在のパスはいろいろな評価が多く検討したい。
- 能登地域ではかなり細かく改定を行っており、加賀地域でも能登を参考にしていってはどうか。